

兵庫県保険医協会北播支部 特別研究会

認知症患者さんとの共生社会を目指して

日時 **4月13日(土)** 14:30~16:00

会場 小野市うるおい交流館エクラ2F 中会議室 (〒675-1366 小野市中島町72)

講師 東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科教授 **上田 諭** 先生

参加費 無 料

「認知症の進行を薬で止めよう」「行動障害を薬で抑えよう」と考えて治療を行っても、患者さんは改善しないどころか、薬の副作用で苦しみ、自尊心を失い、かえって不幸になるかもしれません。むしろ、患者さんを「地域社会の中で生きるひとりの人間」と考え、「張り合いのある生活」や「その人らしい生き方」を一緒に取り戻そうと向き合うほうが、お互いに幸せになれるでしょう。

上田先生のご講演を伺えば、私達の診療に大きなパラダイムシフトがもたらされ、明日から自信をもって「張り合いのある診療」を実践できるはず【木原章雄/西脇市・きはら心療クリニック】

【上田 諭(うえだ さとし)先生ご紹介】

関西学院大学社会学部卒業後、朝日新聞に記者として入社も医学への志向から北海道大学医学部に入学。北海道大学医学部卒業後、東京都老人医療センター精神科などを経て、日本医科大学精神神経科講師を務める。老年期精神医学やリエゾン精神医学を専門とし、認知症のみならずこころの問題に力を注いでいる。17年4月より東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科教授に就任。

著書に『治さなくてよい認知症』(2014 日本評論社)『不幸な認知症、幸せな認知症』(2014 マガジンハウス)

*お問い合わせは TEL 078-393-1817 北播支部担当 吉永、佐々木まで

【参加申し込み】 -----

FAX 返信：078-393-1802 (切り取らずにご返信ください)

北播支部 特別研究会に () 人、参加します

地区 _____ 医療機関・施設名 _____

代表者お名前 _____ 職 種 _____

TEL _____ FAX _____ 地図 要・不要

兵庫県保険医協会

北播支部

ニュース

2019年 3月25日号 No.173

発行者 兵庫県保険医協会北播支部
支部長 柏木 有二

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

後期高齢者窓口負担1割継続を求める意見書採択についての請願行動

受診抑制のおそれを訴え

西脇市議会で柳井映二先生が意見陳述



「疾病が重なる後期高齢者の2割負担化は避けるべき」と柳井先生

北播支部は、西脇市3月定例議会に「後期高齢者の窓口負担原則1割の継続を求める意見書採択についての請願書」を提出(紹介議員は寺北建樹氏・共産、村井正信氏・無所属)。3月7日の同議会文教民生常任委員会では柳井映二支部世話人・評議員が意見陳述し医療現場からの声を届けた(陳述要旨は2面)。

昨年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018」(いわゆる骨太の方針)には「後期高齢者の窓口負担の在り方について検討」との文言が盛り込まれた。さらに、財務省の財政制度等審議会財政制度分科会では、「75歳以上の後期高齢者の自己負担について2割負担とすべき」と提案されたことをうけて、請願書では西脇市議会で原則1割の継続を求める意見書を採択し、国に継続を要望するよう求めている。

同常任委員会は、村岡栄紀氏(無所属・青葉会/委員長)、中川正則氏(無所属・月曜会/副委員長)、吉井敏恭氏(無所属・月曜会)、美土路祐子氏(無所属)、東野敏弘氏(同)、(2面につづく)

(1面のつづき)

岡崎義樹氏(公明党)で構成される。柳井先生は「慢性疾患を抱える後期高齢者の窓口負担引き上げは受診抑制を招き、疾病の悪化に繋がる」と意見陳述。各委員からは「毎年の医療費の増大は深刻。後期高齢者の負担増回避で他の世代にしわ寄せがいく可能性がある」「世代間の公平性に配慮すべき」「西脇市の医療財源も圧迫するのでは」などの意見が出され、請願の紹介議員である共産党の寺北氏からは「あくまで国に対して声をあげるかどうかの問題。市財政云々と同時に語るべきでない」などのやりとりがあった。

同請願は3月25日(月)の本会議で「採択」「不採択」が決定される。

【意見陳述での訴え(要旨)】

昨年6月15日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018」、いわゆる骨太の方針には「後期高齢者の窓口負担の在り方について検討」との文言が盛り込まれました。さらに、財務省の財政制度等審議会財政制度分科会では、「75歳以上の後期高齢者の自己負担について2割負担とすべき」との提案がなされ、現在、原則1割とされている75歳以上の後期高齢者の自己負担を、倍の2割に引き上げることが検討されています。

しかし、この間の国民生活に目を向けると、実収入はゆるやかに伸びているものの、それ以上に社会保障の伸びや、所得税や住民税などの直接税の増加により、可処分所得は伸びていません。とりわけ、高齢世帯は、生活保護を受給する世帯が増え続けており、きわめて厳しい家計状況におかれています。たとえば、高齢夫婦無職世帯では、生活費などが毎月約5.5万円不足し、貯金を取り崩して生活せざるを得ず、また「貯金なし」の高齢者世帯は15.1%にのぼるといのが実情です。

高齢者の多くは、糖尿病や高血圧などの慢性疾患を抱えており、健康を維持するためには継続的な通院が不可欠です。医療機関で支払う窓口負担は高齢者の生活にとって、現在でも重い負担となっています。私たちが県下医療機関5316件を対象に実施した「2015年受診実態調査」では、8割の医療機関が、原則1割負担である75歳以上の患者窓口負担を2割へ引き上げるとは「受診の抑制につながる」と回答しています。

これ以上の窓口負担の引き上げにより、高齢者が必要な医療を受けられず、疾病を悪化させることを、私たちは地域住民の命・健康を預かる開業医師・歯科医師の団体として深く憂慮しています。

☆北播支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

TEL 078-393-1817 / FAX 078-393-1802 e-mail ysng@doc-net.or.jp 担当: 吉永まで



兵庫県保険医協会北播支部「映画上映会」「トーク&ディスカッション」のご案内

私たちの「水」が危ない!?

水道法改正後の未来を考える

●日時 6月1日(土) 14時~15時30分

●会場 小野市うるおい交流館エクラ 市民交流ホール

(小野市中島町72)

●参加費 無料(どなたでもご参加いただけます)

これまで日本では、水道の運営は全て自治体が担ってきました。しかし、昨年秋の国会で「水道民営化」を進めやすくする改正水道法が成立しました。

これまで水道民営化された諸外国では、何が問題になったのでしょうか。また今まさに、民営化が推し進められる国では何が起ころうとしているのでしょうか。このドキュメンタリー映画『最後の一滴まで』で海外の実情を覗いてみましょう。

また映画上映後、日本語版の企画・制作統括である内田聖子さんをお迎えしての解説トークも。あらゆる立場をこえて自由にディスカッションしたいと思います。みなさん奮ってご参加ください(北播支部 世話人 内科医 西山 敬吾)

第1部 映画上映 (14:00~15:00)

『最後の一滴まで』

~ヨーロッパの隠された水戦争~

(日本語版/2017年/ギリシャ/59分)



第2部 映画解説トーク&ディスカッション (15:00~15:30)

『ヨーロッパの教訓から見える日本の水の行方』



内田 聖子氏 NPO法人アジア太平洋資料センター(PARC)共同代表

慶応義塾大学文学部卒業。出版社勤務などを経て2001年より同センター事務局スタッフとなる。自由貿易・投資協定のウォッチと調査、政府や国際機関への提言活動、市民キャンペーンなどを行う。TPPウォッチの国際NGOネットワークにも所属し、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、マレーシアなどの市民社会とともに活動。共著に、『徹底解剖国家戦略特区—私たちの暮らしはどうなる?』(2014年/コモンズ)など

参加申込・問合せ先 →兵庫県保険医協会 北播支部

TEL: 078-393-1817 Email: ysng@doc-net.or.jp 担当: 吉永、佐々木

医療機関名

お名前

参加人数

人

FAX返信: 078-393-1802